

2016年3月期の連結業績報告・分析

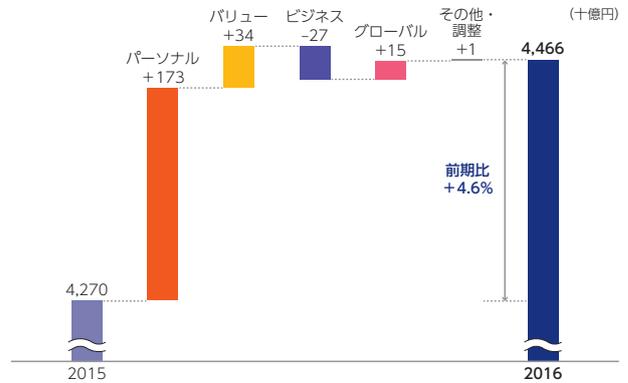
連結損益計算書分析

売上高

(3月31日に終了した各決算期)

前期比 **4.6%増**
4兆4,661億円

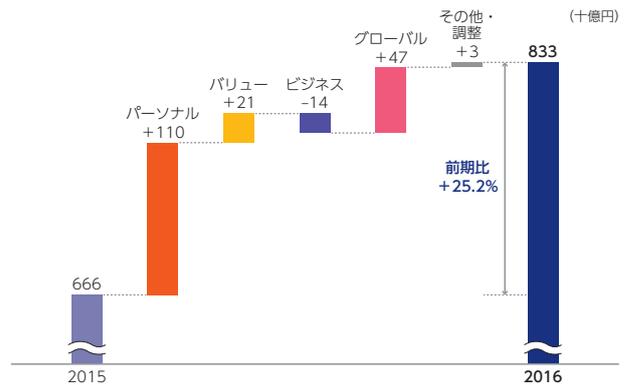
au通信ARPAと付加価値ARPAの増加に起因する総合ARPA収入の増加をはじめ、固定通信用料収入の増加、端末販売や海外子会社などの売上も増加したことにより、連結売上高は前期比4.6%増となる4兆4,661億円となりました。



営業利益

前期比 **25.2%増**
8,334億円

総合ARPA収入をはじめとする売上高の増加や、前期計上した設備減損除却などの縮小が、増益に貢献したことにより、au販売手数料や減価償却費などの増加があったものの、連結営業利益は前期比25.2%増となる8,334億円となりました。



親会社の所有者に帰属する当期利益

前期比 **24.9%増**
4,945億円

連結営業利益の増加が、法人所得税費用の増加や、非支配持分利益の増加による影響を吸収し、親会社の所有者に帰属する当期利益は前期比24.9%増となる4,945億円となりました。

1株当たり配当金

前期比 **13.33円増***
70.00円

1株当たり年間配当金は、前期比13.33円*増配となる70.00円で、連結配当性向は35.4%となりました。配当方針については、成長に必要な投資と安定した事業運営を考慮しつつ、連結配当性向35%超を維持し、営業利益成長に伴うEPS成長との相乗効果により、持続的な増配を目指していきます。

* 株式分割調整後ベース

連結財政状態計算書分析

資産

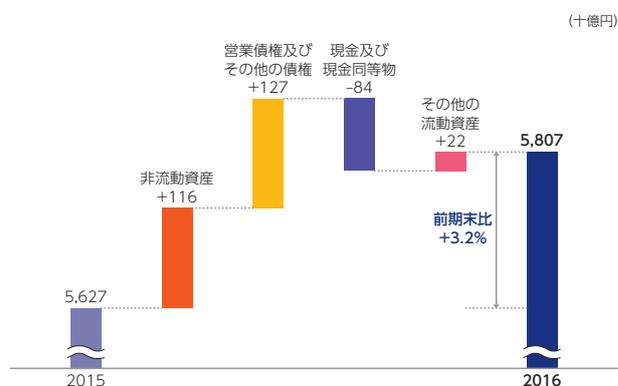
(3月31日に終了した各決算期)

前期末比

1,805億円増

5兆8,072億円

ジュピターショップチャンネルの新規連結化などに伴う資産の増加に加え、au WALLETクレジットカード事業の拡大、au携帯電話端末の割賦の増加により、資産合計は前期末比1,805億円増となる5兆8,072億円となりました。



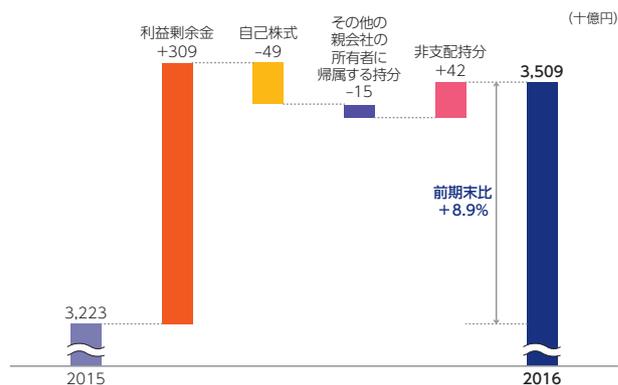
資本

前期末比

2,864億円増

3兆5,095億円

当期利益の増加に伴う利益剰余金の増加、非支配持分の増加などにより、資本合計は前期末比2,864億円増となる3兆5,095億円となりました。



有利子負債

前期末比

812億円増

1兆2,353億円

主に、ジュピターショップチャンネルの株式取得に伴う長期借入金の増加により、有利子負債は前期末比812億円増となる1兆2,353億円となりました。

D/Eレシオ

前期末比

0.01 pt減

0.37倍

有利子負債が増加したものの、利益剰余金の増加などにより親会社の所有者に帰属する持分も増加したことで、D/Eレシオは前期末比0.01ポイント減の0.37倍となりました。

設備投資と連結キャッシュ・フロー分析

設備投資額

(3月31日に終了した各決算期)

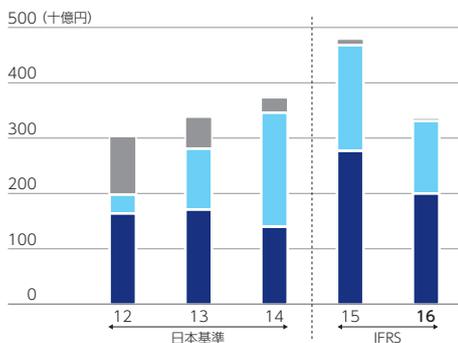
連結の設備投資額は、前期比1,363億円減の5,314億円となりました。

モバイル 前期比 **1,411億円減**
3,380億円

モバイルでは、引き続きデータトラフィック対応のための無線基地局および交換設備の新設・増設などの投資を行いました。4G LTE (800MHz) エリアの人口カバー率が99%を超え、エリア拡充の投資が減少したこともあり、前期比1,411億円減の3,380億円となりました。

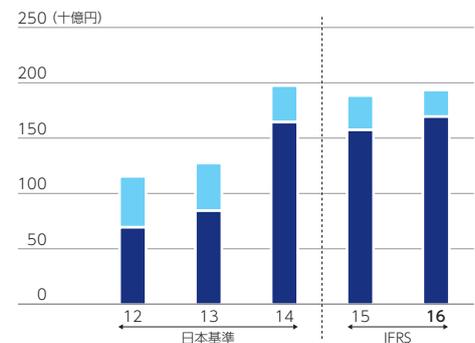
固定・その他 前期比 **48億円増**
1,934億円

固定では、引き続きモバイルのデータトラフィック増に対応する固定通信のネットワーク拡充に加え、FTTHおよびケーブルテレビに係る設備の新設・増設を行った結果、前期比48億円増の1,934億円となりました。



	日本基準			IFRS	
■ 3G	105	57	27	11	5
■ LTE	34	110	206	191	131
■ 共通設備他*	165	172	141	278	201
合計	304	338	374	479	338

* IFRSの任意適用に伴い、連結子会社化したUQコミュニケーションズの設備投資を含む



	日本基準			IFRS	
■ FTTH	46	43	33	31	24
■ その他	71	86	165	158	170
合計	117	129	198	189	193

連結キャッシュ・フロー

(3月31日に終了した各決算期)

フリー・キャッシュ・フロー 前期比 **1,164億円減**
2,166億円

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期利益や減価償却費は増加したものの、債権債務の増減や法人所得税支払の増加もあり、前期比842億円減の8,845億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、ジュピターショップチャンネルの株式取得などにより、前期比322億円の支出増となる6,679億円の支出となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合計したフリー・キャッシュ・フローは、前期比1,164億円減となる2,166億円となりました。



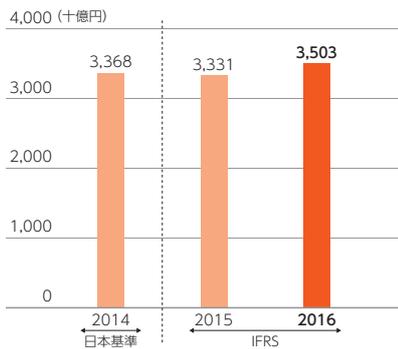
	日本基準			IFRS	
○フリー・キャッシュ・フロー	241	51	226	333	217
■営業活動によるキャッシュ・フロー	726	524	772	969	885
■設備投資	-422	-467	-572	-668	-531
■その他投資キャッシュ・フロー	-63	-6	26	32	-136
○EBITDA	908	960	1,186	1,285	1,411

業績概況

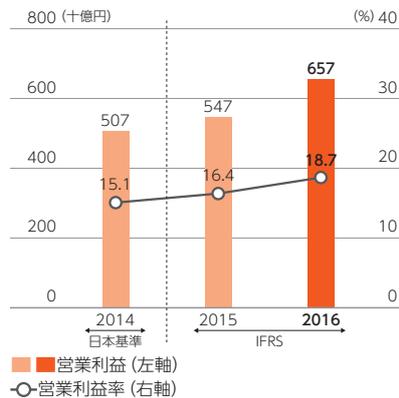
2016年3月期の売上高は、マルチデバイス化の推進によるau通信ARPAの増加に伴い、au通信ARPA収入が増加したことに加え、端末販売収入の増加などにより、前期比5.2%増の3兆5,033億円となりました。

一方、営業利益は、MNPを中心とした顧客獲得競争の激化に伴う販売手数料の増加や、端末販売台数の増加に伴う端末調達費用の増加、減価償却費などの増加などを上回る増収により、前期比20.1%増の6,566億円となりました。

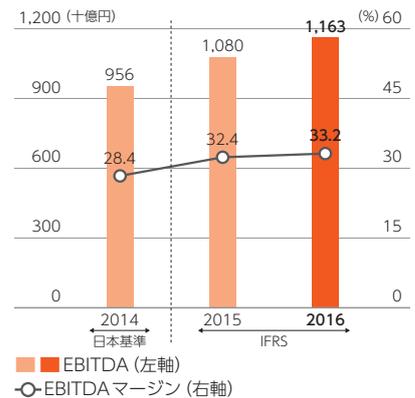
売上高



営業利益 / 営業利益率

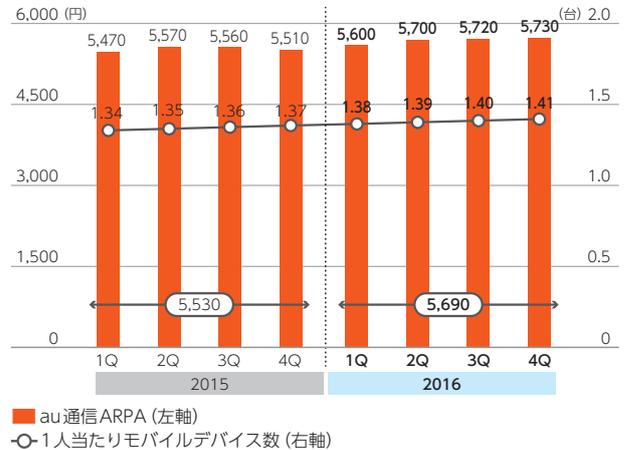


EBITDA / EBITDA マージン



au通信ARPA / 1人当たりモバイルデバイス数

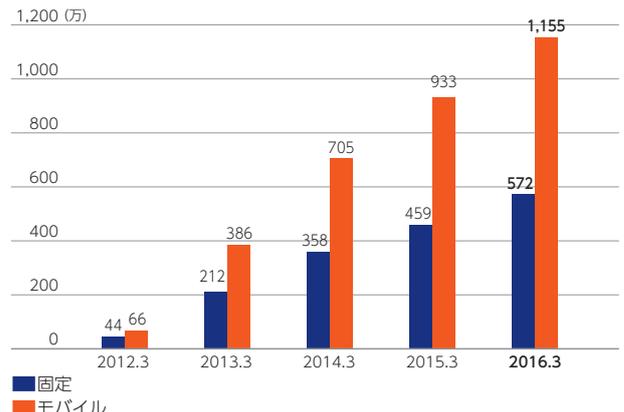
au通信ARPAは、フィーチャーフォンからスマートフォンへのシフトにより、スマートフォン浸透率が前期末比3.9ポイント上昇し58.2%となったことに加え、タブレットやモバイルルーターなどのスマートフォンとのセット販売によるマルチデバイス化の推進によって、お客さま1人当たりが持つデバイス数が増加したこともあり、前期比160円増の5,690円となりました。



auスマートバリュー契約数

auスマートバリューは、モバイルと固定の相互販売によって顧客基盤の拡大を続けています。

auスマートバリューの適用条件の拡大や、提携パートナーの増加もあり、auスマートバリューの契約数は、モバイルでは前期末比222万増の1,155万契約、固定ブロードバンドの世帯数では前期末比113万増の572万契約となりました。



バリューセグメント

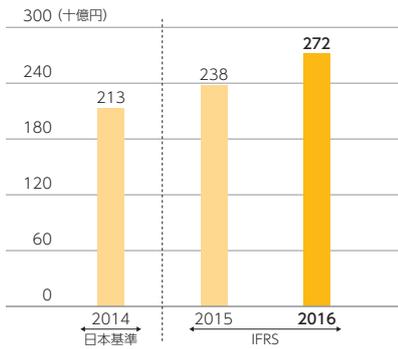
(3月31日に終了した各決算期)

業績概況

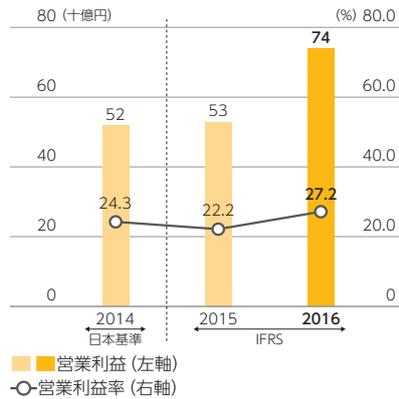
2016年3月期の売上高は、「auスマートパス」をはじめとする月額会員制オンラインサービスの会員数増加に加え、「au WALLET」を中心とした決済手数料収入の増加に伴う付加価値ARPA収入の増加などにより、前期比14.3%増の2,718億円となりました。

一方、営業利益は、「au WALLET Market」のサービス開始やジュピターショップチャンネルの新規連結化に伴う商品原価の増加を上回る増収により、前期比40.1%増の738億円となりました。

売上高



営業利益 / 営業利益率

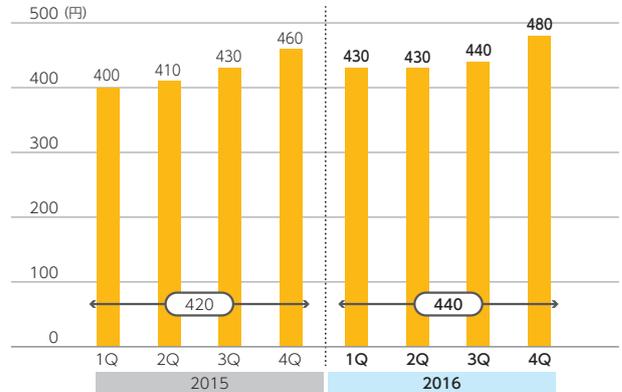


EBITDA / EBITDA マージン



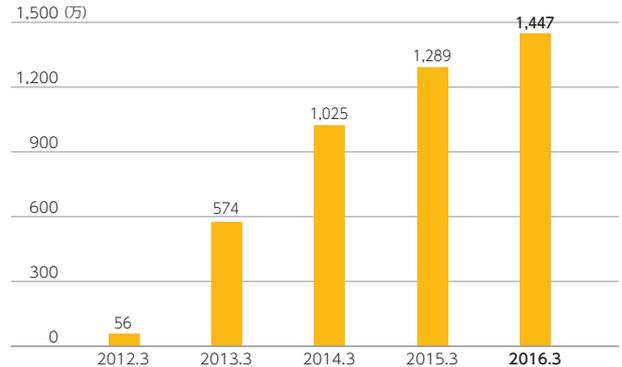
付加価値ARPA

2016年3月期の付加価値ARPAは、「auスマートパス」の会員数が順調に増加したことに加え、「auかんたん決済」や「au WALLET」の決済手数料収入、「au WALLET Market」の物販収入が増加したことなどにより、前期比20円増の440円となりました。



auスマートパス会員数

2015年3月に開始した「auスマートパスの日」や、iPhone・iPad向けの修理サービスなど、お客さまのニーズに合った施策を積極展開したことにより、計画を上回る増加となり、前期末比12.3%増の1,447万会員となりました。



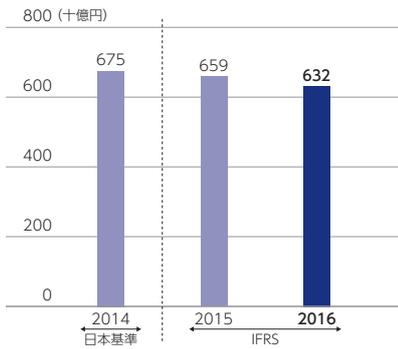
業績概況

2016年3月期の売上高は、クラウドやITアウトソースなどのソリューション売上に加え、連結子会社のKDDIまとめてオフィス株式会社による中小企業向けの売上が拡大したものの、音声通話定額の導入に伴うモバイル通信料収入の減少などにより、前期比4.1%減の6,320億円とな

りました。

一方、営業利益は、端末調達費用が増加したものの、販売手数料やアクセスチャージなどの減少もあり、前期比19.0%減の614億円となりました。

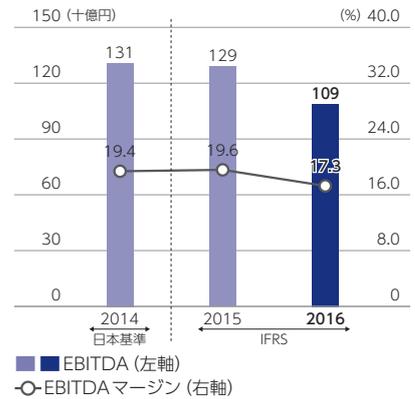
売上高



営業利益／営業利益率



EBITDA／EBITDAマージン



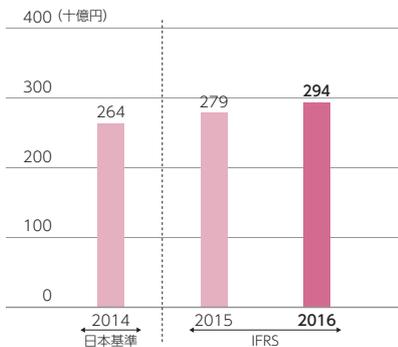
グローバルセグメント

業績概況

2016年3月期の売上高は、主にミャンマーにおける通信事業や「TELEHOUSE」ブランドのデータセンター事業の増収により、前期比5.5%増の2,944億円となりました。

一方、営業利益は、2015年3月期に発生した海外子会社事業損失がなくなったこともあり、前期比で474億円増加し、321億円となりました。

売上高



営業利益／営業利益率



EBITDA／EBITDAマージン

